

児童・生徒の現状・課題

様々な学習に対して興味・関心の高い児童は多いが、基礎学力の定着が不十分であることから、途中で諦めてしまったり、表出ができなかったりする児童が多い。家庭学習が未定着の児童も一定数見られ、自己肯定感の低い児童も散見される。



学び続ける力を育むための重点目標

- 単元最後の活動の工夫や、見通しをもって学習や活動に取り組む手立てを取り入れる。
- 1 単位時間の中に学習方法や形態などの選択場面を取り入れ、学びを自分の力で進める意識を高める。



具体的な手だて①

児童と共に学習計画を作成し、それを基に毎時間「本時のめあて」を提示する。児童が1時間で何を学ばよいかを視覚化し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

「選択肢 6 の視点」を日々の授業において意識して取り入れ、児童が学び方を習得できるような指導、助言を行う。

具体的な手だて③

単元のまとめの活動に、ペア学年による交流活動を取り入れ、双方の学び合いの機会をつくる。また、単元指導計画を見直し、交流活動を軸にした学習活動に取り組む。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・ 月1回程度、研究推進委員会が運営する「プチ講座」を実施し、各教員の専門性を生かした研修を継続して行う。
- ・ 月1～2回程度、「ひなたカフェ」を実施し、日々の実践交流や学習指導、学級経営の相談などを自由参加の形で行う。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	74.2	80.0	
②学習してもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している。	77.4	80.0	

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	87.1	90.0	
②児童が自分で計画を立てて学習をすすめる力をはぐむため、授業や家庭学習等において手立てを講じたり、指導したりしている。	83.9	85.0	

総括(5月)

昨年度は統合初年度で、児童が新しい学校での居場所をつくること、そして集団の形成者として主体的に学習に取り組む姿勢を育むことを意識して指導を重ねてきた。その中で、学年が進行するにつれて基礎学力に課題のある児童の割合が増えていることが明らかになった。今年度はその実態を踏まえ、校内研究の異学年交流の機会を学習場面にも広げ、下学年児童の学習への興味関心を更に高めること、上学年児童が下学年児童への発表等を通して「学び直し」の機会を保障することに重点的に取り組む。

総括(1月)